

古典シリア語旧約聖書における 倫理与格の出現条件について

榎崎 勝則

0. 本論の目的
1. 倫理与格とは
2. 榎崎 (2001) の提唱した倫理与格の出現条件
3. 聖書ヘブライ語の倫理与格とシリア語の倫理与格の比較
4. 旧約聖書に現れる三人称男性単数の倫理与格
5. 結論と展望

0. 本論の目的

古典シリア語 (以下シリア語)¹⁾には非分離前置詞としてラーマドトがある。ラーマドトは方向“to”を示す本来の意味を持ちながらも、それに加えて動作の方向、受益者等を表す「与格」を示すようになった。

本論においては、ラーマドトの多くの機能のうち、いわゆる倫理与格について論じる。榎崎 (2001) においては、シリア語新約聖書ペシッタ版を資料として用いて倫理与格の機能と出現条件を推定した。本論では榎崎 (2001) で言及した倫理与格の出現条件を一部改訂した後、ヘブライ語旧約聖書における倫理与格の出現の状況とシリア語聖書における倫

1) シリア語は都市エデッサを中心とするアラム語の一地方語である。アラム語は次のような年代に分けられる (1985 高階 p.293 及び言語学大辞典)。(1) 古代アラム語 (BC10c ~ BC7c) (2) 公用アラム語 (BC7c ~ BC3c/BC2c) (3) 中期アラム語 (BC3c/2c ~ AD2c) (4) 後期アラム語 (AD2c ~ AD7c 又は AD11c/13c) (5) 現代アラム語 (AD19c ~) このように分けた場合シリア語は後期アラム語に属し、紀元一世紀から十三世紀までの言語資料を提供する。シリア語はイスラムの大征服が原因となり、話し言葉としては七世紀後半には使われなくなった。しかしキリスト教の東方教会の典礼用語として、著作は十三世紀まで続けられた。またシリア語の聖書は現代でもヤコブ派とネストリウス派の教会で使われている。

倫理与格の出現状況を比較する。その比較においてヘブライ語における倫理与格とシリア語における倫理与格は性質が異なることを示す。さらに、改訂した条件がシリア語旧約聖書ペシッタ版の中の倫理与格にも適用されることを確認することが目的である。

1. 倫理与格 ED (Ethical Dative) とは

倫理与格は心性的与格ともいわれる。心性的与格については言語学大辞典に次のような記述が見られる²⁾。

これ(心性的与格)³⁾は人称代名詞の与格を使って、話し手が、特に自分の、または相手の関心を引く情緒的な表現にみられ、したがって、話し言葉に用いられる。ラテン語の例でいえば、

(1-1) *At tibi venit ad me.*

ほら、君、あいつが私の所に来たぞ。

(1-2) *Quo mihi abis?*

お前は、いったい、どこに行くんだ。

(1-1) の *tibi* は 2 人称代名詞の単数・与格、(1-2) の *mihi* は 1 人称代名詞の単数・与格である。

(1-3) *Knock me at the door.*⁴⁾

ドアをたたいてくれ。

の *me* がその与格の機能を示す。

上の記述は印欧語の与格に見られる現象を中心に考えて記述されたものである。

Shibatani (1994) もこの文脈で、印欧語、日本語、現代ヘブライ語などにおける倫理与格の現象を指摘して、理論的解釈を試みている。し

2) 言語学大辞典術語編 p.1374

3) () 内は筆者挿入。

4) ただしこの英文は数人のアメリカ人に聞かせたところ、筆者の希望する意味で取った者はいなかった。この例文は母語話者チェックの正確を期すべきである。

かしながらこれら二点の先行研究にはシリア語の倫理与格への言及は全く見られない。またヘブライ語やシリア語に見られる倫理与格は主語と「与格」代名詞が一致することを前提とするので印欧語等における倫理与格と性質が異なっている。

Joosten (1989: 473-74) は次のような 4 特徴を以てシリア語における倫理与格の精確な定義を述べている。

ラーマドと代名詞接辞からなる
 代名詞接辞は人称・性・数で動詞の主語に一致する
 自動詞、または他動詞の受動形と共に生じる
 動詞句の直後に来て、動詞句と ED との間にはどんな語も入らない

この定義は他動詞を排除しており、主語の利益の為にする行為に付与される「利益与格」を極力取り除こうとする態度である。この姿勢に筆者も同調する。

次の二例はシリア語の倫理与格のある場合と無い場合を示している。

(1-4) qerbat l-āh 'lay-kwon malkwut-eh da-'lāhā'
 draw near ED onto-you(m.pl.) kingdom-his of-God
 ἤγγικεν (ἐφ' υμας⁵⁾) ἡ βασιλεία τοῦ θεοῦ
 『…神の国が《あなたがたに》近づいた(ことを知れ)』 Luke 10,11

(1-5) qerbat 'lay-kwon malkwute-h da-'lāhā'
 draw near onto-you(m.pl.) kingdom-his of-God
 ἤγγικεν ἐφ' ὑμᾶς ἡ βασιλεία τοῦ θεοῦ
 『神の国はあなたがたに近づいた』(と言いなさい。) Luke 10,9

上の例を見ると、例文(1-4)では qerbat “draw near(pf.3.f.sg.)” の後にラーマド l- と、主語、動詞の示す性・数と一致する非分離人称代名詞の前置詞句 l-āh “l-pr.3.f.sg.” がくる。その後「あなたがたに」が来

5) 氣息記号、アクセント記号や省音記号が付いていないのは、括弧の中の文は、聖書本文に記されず、脚注に置かれて、写本間の異同を示している。

る。ところが例文(1-5)では qerbat の後に直接「あなたがたに」が続く。この(1-4)の例に見られるラーマト1と人称代名詞の結合形が倫理与格と呼ばれる。それはラーマト1が意味的な与格を示す機能を持つ前置詞であることから呼ばれるものである。

2. 檜崎(2001)の提唱した倫理与格出現の条件

2.1 檜崎(2001)の条件

檜崎(2001)では Joosten(1989)が提示した倫理与格の機能および出現条件についての記述の不正確さを指摘した。

Joosten(1989)は「倫理与格は『当該の動詞に関連する状態に入る』ことをあらわす」と述べて、倫理与格の機能はアスペクトの変換であると解釈できる説明をしている。しかし、「倫理与格が現れる動詞は基本形 qtal 形⁶⁾に対して qatṭil 形の形容詞が存在する」ことを根拠として倫理与格の機能を特定するのは論理的に到底納得できるものではない。

檜崎(2001)は Joosten(1989)に代わって新たな出現条件を提示した。ここではその条件を機能と読み替えて提示することにする。それらは次のものである。

機能1: 倫理与格は文脈上、言表事態と発話者または記述者との関係の緊密性を示す

機能2: 倫理与格は、主語の取り立て機能を有する

機能3: 主語の特異性が倫理与格の出現に関与する

機能4: 倫理与格は方向を示すラーマト1-の本来の機能の言語化である可能性を持つ

2.2 機能1と機能3について

ここで機能1と機能3について考える。機能3の主語の特異性とは、新約聖書の中で重要と考えられる「神」、イエス、ペテロ、パウロなど

6) シリア語の動詞の説明には qtl “to kill” を例に取るのが一般的なので、それに従うと、qtal が基本形、qatṭel が強調形、’aqṭel が使役形と一般に言われる。さらにそれらの基本形と派生形の各々には再帰形があり、それぞれ ’etqṭel, ’etqatṭal, ’ettaqṭal である。

の人物に関わることである。これらは三人称男性単数で現れる。つまり、新約聖書における三人称男性単数の倫理与格の多さを説明するために想定した機能である。

実際、シリア語新約聖書内で倫理与格が最も共起する動詞 'ezal "to go" を観察すると、'ezal "to go" の出現例 437 例のうち、倫理与格を伴って出現するのが 29 例、約 6 % である。その 29 例のうち命令形と共起しているのは 4 例、つまり倫理与格の約 14 % に過ぎない。それに対して三人称男性単数の主語を持つ動詞と倫理与格が共起する例は完了形で 16 例、未完了形で 4 例、計 20 例、約 69 % に上る。

- (2-1) wa-kbar 'āp 'ayleyn da-dmekw ba-mšiyḥā' 'ebadw l-hwon.
and-perhaps also they that-sleep in-Christ perish ED
そうだとすると、キリストを信じて眠りについた人々も滅んでしま
ったわけです。 1 Cor. 15,18

上の例（2-1）を榎崎（2001）の分析手法で分析すると「キリストを信じた人」という記述内容は記述者や聞き手には緊密である。従って機能 1 を持つ。そして三人称男性複数という主語は取り立て機能を有していると考えられる。

動作者の取り立て機能については二人称において最も強いと考えられる。面前にいる人に向かって発する言葉と、面前にはいない誰かについて記述する言葉の違いである。しかしながら新約聖書の記述が三人称単数について多くの分量を持つ事実を照らして、三人称複数の特異であると考えられる。従って機能 2 を持つ。しかし、その主語は特定の人ではないので主語が特異性を持つとは考えられない。従って機能 3 は持たない。さらに、「滅ぶ」ことは何かの場所へ行くという動詞ではないので機能 4 も持たない。

次に、別の例を考えてみる。

- (2-2) hāšā' deyn 'āzel 'nā' liy lwāt man d-šadran-y.
now for going I ED towards who that-send-me
今わたしは、わたしをお遣わしになった方のもとに行こうとして
いるが、 John 16,5

例(2-2)を同様に分析すると、「私(=イエス)が私をお遣わしになった方(=神)のもとに行こうとしている」という記述内容は記述者や聞き手には緊密である。従って機能1を持つ。そして一人称単数という主語は取り立て機能2を持つ。さらに、その主語は「イエス」であり、機能3を持つ。さらにまた、神の「もと」が現実の場所ではないにしても lwät 「~の方へ」という前置詞があるので、機能4を持つ。

上記二例における機能1と機能3の関係について考察をする。両例ともイエスに関する記述であるから機能1は備わっている。(2-1)の主語は特定できない人々であり機能3は無く、(2-2)の主語はイエスであるから機能3があるものの、両者に倫理与格が出現している。これは機能3よりは機能1の方が強く倫理与格に関与していると考えられることを支持している。

2.3 改訂機能の提示

主語の特定性を示す機能3は資料の性質に多く依存していると考えられる。例えば資料が日記であれば、全体を通して現れる主語は一人称単数であるだろうし、例えば資料が手紙であれば一人称単数や二人称単数が多く現れることは容易に想像できる。

以上から、檜崎(2001)の倫理与格の機能3は資料の性質に依存して有意になる可能性はあるものの、新約聖書および旧約聖書を資料として使用する際には有意性は低いと判断できる。そこで機能3を機能1に結合させて新たに3種類の機能を提示すると次のようである。

- F1: 倫理与格は文脈上、言表事態と発話者または記述者との関係の緊密性を示す
- F2: 倫理与格は、主語の取り立て機能を有する
- F3: 倫理与格は方向を示すラーマド l- の本来の機能の言語化である可能性を持つ

3. 聖書ヘブライ語の倫理与格とシリア語の倫理与格の比較

3.1 ヘブライ語倫理与格とシリア語倫理与格が対応して現れる例

Gesenius (1910: 381 § 119 s) は「ある話題にとって該当する行為の

重要性を強調するために冗語的な倫理与格 (*dativus ethicus*) として、話し言葉の中で、またより新しい文体の中で、利益を表す与格 (*dativus commodi*) が使われる」と記述し、大部分が命令形の後ろで、ラーマド 1- と 2 人称代名詞との結合形が使われると述べる。

実際、Gesenius (*ibid.*) が提出している例⁷⁾を調べると、ワウ継続⁸⁾の完了形が文脈の中で命令と解釈できるところを含めて、命令形は 22 例中 20 例を占める。実に 90 % の高率である。

3. 1. 1 命令形と出現する倫理与格の例

(3-1) wa-y'omer yhw'el-'abrām lek lə-kā⁹⁾

w-'emar māryā' l-'abrām; zel lā-k men 'ar'ā-k
and-said Lord to-Abram go ED

主はアブラムに言われた。「(あなたは生まれ故郷父の家を離れて私が示す地に) 行きなさい。…」 Gen. 12,1

(3-1) の例は聖書ヘブライ語に現れる倫理与格の典型的な例である。第一行のヘブライ語の部分では、動詞の 2 人称男性単数命令形 *lek* 「行け」の後に *lə-kā* というラーマド 1- と 2 人称男性単数の非分離代名詞が来る。一行目のヘブライ語に対応する二行目のシリア語でも同様に、2 人称男性単数命令形 *zel* 「行け」の後に *lā-k* というラーマド 1- と 2 人称男性単数の非分離代名詞が来る。この例はヘブライ語とシリア語が平行している例である。このような平行している例は多い。

(3-2)

w-lek lə-kā

dbar la-brā-k l-yihyidāyā-k d-rahēm 'ant l-'yishāq; w-zel lə-k l-'ar'ā' d-'amworāyē';

and-go ED

7) Gesenius (*ibid.*) が提出する例の中には *habwu* “take” が入っている。しかしここでは Joosten (1989) の倫理与格の定義に従って他動詞は排除することにする。

8) ワウ継続とは、文または段落の初出の動詞が完了形であるとする、次に出る動詞はワウ「そして」の後に未完了で出る。しかし、時制やアスペクトは初出の動詞と一致するという現象。

9) *lə-kā* はラーマド 1- に 2 人称男性単数の代名詞が付属した形式である。

「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地
に行きなさい。…」 Gen. 22,2

(3-3) leky lā-k¹⁰⁾
'nā' dād-y w-'emar l-iy; qwumy lē-ky šapyirat-y qaryibt-y w-zely lē-ky.
and-go ED

恋しい人は言います。「恋人よ、美しい人よ さあ、立って出ておい
で。…」 Song. 2,10

(3-4) leky lā-k
qwumy lēky šapyirat-y qaryibt-y; w-tāy¹¹⁾ lē-ky.
and-come ED

恋人よ、美しいひとよ さあ、立って出ておいで。 Song. 2,13

(3-5) nəṭēh lē-kā
sṭiy lā-k men bātar;
turn aside ED

「(右か左に) それで... (身につけているものを奪ったらどうだ)」
2 Sam. 2,21

(3-6) sə'wu lā-kem¹²⁾
'etpnāw wa-šqwolw l-kwon;
turn aside and-start ED

向きを変えて出発し、... (行きなさい。) Deut. 1,7

(3-7) bəraḥ lə-kā
w-quwm zel lā-k lwāt lābān " āḥ-y l-hārān;
and- rise go ED

急いでハランに、私の兄ラバンの所へ逃げて行きなさい。 Gen. 27,43

10) lā-k はラーマドトに二人称女性単数代名詞の付属した形式である。

11) tāy は 'etā' "come" の二人称女性単数の命令形。

12) lā-kem はラーマドトに二人称男性複数の代名詞が付属した形式である。

cease ED

わたしと共にいる神に逆らわずにいなさい。

2 Chro. 35,21

(3-15) ḥidlwu lā-kem

šlaw l-kwon

cease ED

(人間に頼るのを) 止めよ

Is. 2,22

(3-16) hišāmer lə-kā

'ezdahr¹³⁾ lā-k dalmā' tahpek l-bēry l-tamān.¹⁴⁾

take care ED

決して息子をあちらへ行かせてはならない。

Gen. 24,6

(3-17) sob dāmēh lə-kā dwodi-y l-išbiy 'wo lə-'oper hā'ayāliym

'ethapak dmiy lā-k dādi-y; l-ṭabyā' 'āw l-'wuzaylā' d-'aylē';

be like ED

恋しい人よ、...かもしかのように、若い雄鹿のように...帰って来てください

Song. 2,17

(3-18) bəraḥ dwodi-y wu-dāmēh lə-kā

'ethapak dādi-y dmiy lā-k;

be like ED

恋しい人よ 急いでください、...(かもしか)のように...。 Song. 8,14

3. 1. 2 ワウ継続の完了形と出現する倫理与格の例

(3-19) wu-pāniytā lə-kā

w-'etpniy lā-k l-madnḥā';

and turn ED

東に向かい、(...川のほとりに身を隠せ。)

2 Kings 17,3

13) "ezdahr の発音は [ezdar] である。

14) このシリア語文の逐語訳は「私の息子をあちらへ行かせないように気を付けなさい」であり日本語訳とは異なる。

(3-20) wu-bā'tā lə-kā 'ereš 'yəhwudāh

zel 'wol lā-k l-'ar 'ap' da-yhwudā'; w'ezal dāwyid w'al lēh
go rise ED

「...ユダの地に出て行きなさい」...ダビデは...行った。 1 Sam. 22,5

3. 1. 3 ワウ継続の未完了形と出現する倫理与格の例

(3-21) wa-tibṭaḥ lə-kā

w-'ettkelt lā-k 'al meṣrāyā';
and-trust ED

エジプトなどを頼みにしている...

Is. 36,9

3. 1. 4 一人称複数と出現する倫理与格の例

(3-22) nigzarnwu lā-nwu

yibešw garmayn; w-'ebad sabra-n; w-'abṭeln la-n.
and-be cut off ED

「...『我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる』と。...」 Eze. 37,11

以上の例ように、ヘブライ語で倫理与格が出現する場合にシリア語でも倫理与格が出現する場合が多い。その場合はやはり命令形と共に倫理与格が多く出現する。ワウ継続の完了は命令形として解釈できるので、それを含めると22例のうち20例が命令形である。ワウ継続の未完了形は完了として意味解釈するので、その他2例が完了形と倫理与格が出現していると言える。

3.2 ヘブライ語の倫理与格に対してシリア語の倫理与格が欠如している例
次にヘブライ語で倫理与格が現れるのに、シリア語では現れない例を見る。

(3-23) 'ibrwu lā-kem 'et-naḥal zāred

mekēl quwmw 'berw naḥlā' d-zard;
rise cross river of-Zered

さあ立ち上がってゼレド川を渡りなさい。

Deut. 2,13

上の例は ‘ibrwu「渡れ」という二人称男性複数命令形のヘブライ語動詞の後にラーマド 1- と二人称男性複数の非分離代名詞が出現している。ところが、それに対応するシリア語には倫理与格は現れていない。

(3-24) wa-tēlek wa-tēšeb lā-h min-neged
 and-sit ED
 w-’ezalt w-yetbat men qbwol;
 子供の方を向いて座り込んだ。 Gen. 21,16

この例は興味深い。同節に二カ所ヘブライ語の watēšeb とシリア語 yetbat「彼女は座った」が出てくるが、ヘブライ語聖書では前半のみに倫理与格が出現し、後半には倫理与格は現れない。ところが、シリア語聖書には両方共に倫理与格は現れないという一貫性がある。

(3-25) wa-yēlek l-ow
 w-šadar mwušē’ la-ḥm-wuhy w-’ezal l-’ar‘ē-h.
 and-go to-place-his
 しゅうとはモーセに送られて、自分の国に帰って行った。 Ex. 18,27

(3-26) šāknāh lā-h
 swogā’ ‘emrat napš-y ‘am ‘aylēyn d-sānēyn šlāmā’
 much live spirit-my
 平和を憎む者と共に私の魂が久しくそこに住むとは。 Psal. 120,6

(3-27) rabat šāb‘āh lā-h napšē-nwu
 w-swogā’ sebat napša-n
 and-much be full spirit-our
 わたしたちの魂はあまりにも飽かされています。 Psal. 123,4

(3-28) bwodēd l-ow¹⁵⁾
 ‘ayk ‘rādā’ yihyidāyāya’

15) ヘブライ語は動詞の分詞で「独りである」と表現しているが、シリア語では形容詞で「独りの」と表現している。

like wild ass sole

エフライムは独りいる野ろば。

Ho. 8,9

上記の例（3-1）から（3-20）までの例では二人称男性の命令形と倫理与格が共起しており、その現象は榎崎（2001）の機能で考えると、機能2の主語の取り立てとして解釈される。（3-23）から（3-28）までの6例はヘブライ語では倫理与格が現れているにも拘わらず、シリア語の方には現れていない。ヘブライ語とシリア語が倫理与格において平行していない例の中で、確かに（3-23）の主語のみが二人称であり、他は三人称、または主語が三人称と考え得る分詞である。つまりヘブライ語の倫理与格とシリア語の倫理与格の出現の条件としては、機能2の取り立てが共通の機能として働いていると言える。

4．旧約聖書に現れる三人称男性単数の倫理与格

さて、ここで旧約聖書モーセ五書に見られる三人称男性単数の倫理与格を見ることにする。聖書という資料の性格上、人称・性・数に関して三人称男性単数が無標と考えることができる。従って、三人称男性単数の例は主語の取り立てという機能2の視点を考えること無しに機能1と機能3を使った分析が出来ると思われる。次の例はヘブライ語聖書では出現せずに、シリア語聖書にのみ出現する三人称男性単数の倫理与格の例である。

1 'rq

(4-1) wa-yugad lə-lāba:n ba-ywom ha-šliyšy kiy bārah ya'aqob
w'-et'mar l-lāban b-yāwmā' da-tlātā'; d-a'raq lē-h ya'qwob.
and-be said to-Laban in-day of-three; that-flee ED Jacob.
ヤコブが逃げたことがラバンに知れたのは、三日目であった。 Gen. 31,22

(4-2) wə-nās 'el-'aḥat he'āriym hā'ēl;
w-ne'rwoq lē-h la-ḥdā' men hālēyin qwuryā';
and-flee ED

これらの町の一つに逃れたならば、

Deut. 19,11

2 'rq npq

(4-3) wa-yānās wēyēšē' ha-ḥwuṣāh;
 wa-'raq npaq lē-h l-šwuqā'.
 and-flee go out ED to-outside
 (ヨセフは) 逃げて外へ出た。 Gen. 39,12

(4-4) wa-yānās wa-yēšē' ha-ḥwuṣāh
 wa-'raq npaq lē-h l-šwuqā' ".
 and-flee go out ED to-outside
 (ヨセフは) 外へ逃げて行きました。 Gen. 39,15

(4-5) wa-yānās ha-ḥwuṣāh
 wa-'raq npaq lē-h l-šwuqā'.
 and-flee go out ED to-outside
 (ヨセフは) 外へ逃げて行きました。 Gen. 39,18

3 npq

(4-6) wə-yāšā' ha-kohēn min-ha-bayit 'el-petaḥ ha-bāyit
 nepwoq lē-h kāhnā' l-bar men baytā'; wanqwum b-tar'ē-h;
 go out ED priest to-out from house
 祭司は家から出て入り口に立ち Lev. 14,38

(4-7) wə-yāšā' 'el-miḥwuṣ la-maḥaneh Deut. 23,11¹⁶⁾
 nepwoq lē-h l-bar men mašrytā'; Deut. 23,10
 go out ED to-out from camp
 陣営の外に出て行き Deut. 23,11

4 gmr

(4-8) kiy 'āpēs kāsep;
 meṭl da-gmar lē-h kespā".
 for that-be spent ED silver

16) 日本語訳聖書はヘブライ語聖書に基づいて章節立てができていますが、シリア語聖書では章節立てで異なるところがある。

銀はなくなってしまいました。 Gen. 47,15

5 'zl

(4-9) wa-yugad lə-melek meṣrayim kiy bāraḥ hā-‘ām
 'eṭḥāwyi l-malkā' d-mecrēyn d-'ezal lē-h 'amā';
 be shown to-king of-Egypt that-go ED people
 民が逃亡したとの報告を受けると、 Ex. 14,5

6 qwm

(4-10) wa-ya'amod mošeh bə-ša'ar ha-maḥaneh
 w-qām lē-h mwušē' b-tar'ā' d-mašknā';
 and-rise ED Moses in-gate of-camp
 (モーセは) 宿営の入り口に立ち、 Ex. 32,26

(4-11) 'abwor wa-ya'amod bə-māqwom çār
 wa-'bar w-qām lē-h b-'atrā' 'alyiṣā';
 and-proceed and-rise ED in-place narrow
 (主の御使いは更に) 進んで来て、...狭い場所に立ちふさがった。 Num. 22,26

7 'br

(4-12) sār ṣlām mē-'alēyhem
 'ābar lē-h gēyr 'wušn-hwon men-hwon;
 go ED for guard-their from-them
 彼らを守るものは離れ去り、 Num. 14,9

8 sṭ'

(4-13) wa-yāṭ yisrā'el mē-'ālāy-w
 wa-sṭā' lē-h yisrāyēl menē-h.
 and-turn aside ED Israel from-him
 イスラエルは迂回しなければならなかった。 Num. 20,21

9 štq

(4-14) wə-heḥeriyš lā-h 'ābiy-hā

w-neštwoq lē-h 'abwu-h;
 and-be silent ED father-her
 父が彼女に何も言わなければ、 Num. 30,5

(4-15) wə-heḥeriš lā-h lo' hēniy' 'otāh Num. 30,12
 w-neštwoq lē-h w-lā' nbaṭel 'enwon; Num. 30,11
 and-be silent ED and-not forbid them
 (夫が) 彼女に何も言わずそれを禁じない場合、 Num. 30,12

(4-16) wə-'im-haḥarēš yaḥariyš lā-h 'iyšā-h mi-ywom 'el-ywom
 Num. 30,15
 w-'en meštaq neštwoq lē-h ba'lā-h men ywom l-ywom;
 Num. 30,14
 and-if be silent ED lord-her from day to-day
 もし、夫が彼女に何も言わず、日を過ごす場合、 Num. 30,15

(4-17) kiy-heḥeriš lāh bə-ywom šāmə'wo; Num. 30,15
 meṭl da-šteq lē-h ba'lā-h b-yāwmā' da-šma' Num. 30,14
 for that-be silent ED lord-her at-day that-hear
 それを聞いた日に、彼女に何も言わなかったからである。 Num. 30,15

10 hpk

(4-18) wə-šāb mē-'aḥareykā; Deut. 23,15
 w-nehpwok lē-h men-kwun. Deut. 23,14
 and-leave ED from-you
 あなたから離れ去ることのないようにしなさい。 Deut. 23,15

11 hpk 'zl

(4-19) wa-yāqām bil'am wa-yēlek wa-yāšāb li-mqomwo
 w-qām bel'am wa-hpak 'ezal lē-h¹⁷⁾ l-'atrē-h;
 and-rise Balaam and-return go ED to-place-his

17) 1913 London Trinitarian Bible Society 版には無いが、1979 United Bible Societies 版には倫理と格がある。

バラムは立ち上がり、自分の所に帰って行った。 Num. 24,25

モーセ五書の中の三人称男性単数の倫理与格は 11 動詞、19 例観察される。

例（4-1）は「ヤコブが逃げたこと」は聞き手に緊迫感を持つと考えられ、機能 1 を持つ。更に、逃げた場所を考えることができるから機能 3 の可能性が考えられる。

例（4-2）は「故意に人を殺した人がこれらの町の一つに逃れたならば」と律法の前件を述べている部分であり、機能 1 を持つ。しかもこれらの町の一つという方向を示すラーマド 1- が直後に現れている。従って機能 3 も持つ。

例（4-3）から（4-5）までは「ファラオの宮廷の役人で侍従長ポティファルの妻の誘惑から逃れたヨセフ」についての記述である。（4-3）は物語の地の文で、（4-4）と（4-5）はポティファルの妻の証言の内容である。これらは事の重大さから機能 1 を持つ。さらに「外に」という方向を示すラーマド 1- が直後に現れるので機能 3 を持つ。

例（4-6）は「家屋にかびが生じた場合の対処法を述べる」場面である。事の重大さは感じられない。しかし、「外に」という語句があり、ラーマド 1- と共に現れている。機能 1 を持たずに機能 3 だけを持つ顕著な例である。

例（4-7）は「敵に向かって陣営を張る時、陣営を清潔に保ち、汚くして主が見捨てないようにするようにと諭す」場面である。機能 1 を持つと考えられる。また men「～から」という語と対になって「～へ」というラーマド 1- 本来の機能が感じられる環境である。従って機能 3 を持つ。

例（4-8）は「エジプトとカナンを襲った飢饉の時に銀を使い果たした」という記述の箇所である。会話文の中であり、事の重大さから機能 1 を持つ。「銀が無くなる」ことが移動であると考えれば機能 3 の可能性が無いとは言えないが、具体的な移動は考えられないので機能 3 は無い。

例（4-9）は「モーセに率いられたイスラエルの民が逃げた」という知らせがエジプト王の元へもたらされる場面である。文脈上、イスラエルの民を去らせたことに対する後悔の気持ちをエジプト王が持っている。

るので、機能1を持つ。更に、前後で「海辺へ逃げた」ことが読みとれるので、機能3の可能性はある。

例(4-10)は「アロンが金の雄牛の像を造り、イスラエルの民がそれを崇めたのでレビの子らが三千人の仲間を殺すようモーセが言おうとしている」場面である。事の重大さから機能1を持つ。機能3は無い。

例(4-11)は「ろばに乗ったパラムに神の使いが剣を手にして立ちふさがっている」場面である。事の重大さから機能1を持つ。機能3は無い。

例(4-12)は「背の高いアナク人を恐れているイスラエルの人々に、偵察に行ってきたヨシュアとカレブが次の戦闘には勝つはずだと説得している」場面である。機能1を持つ。また「～から」と対になって「～へ」というラーマド1-本来の機能が感じられる環境である。従って機能3を持つ。

例(4-13)は「エドム人がモーセの率いるイスラエルの人々が領土を通過することを許さず、もし通過するなら迎え撃とうとしている」場面である。機能1を持つ。また「～から」と対になって「～へ」というラーマド1-本来の機能が感じられる環境である。従って機能3を持つ。

(4-14)から(4-17)までは「女性が神に対して誓願を立てるか、物断ちの誓いをする場合、彼女の誓いと父や夫との関係を述べる」場面である。女性に関しての律法としての重要性はあるので、機能1を持つ。機能3は無い。

例(4-18)は「敵に向かって陣営を張る時、陣営を清潔に保ち、汚くしていて主が見捨てないようにするようにと諭す」場面である。機能1を持つと考えられる。また「～から」という語と対になって「～へ」というラーマド1-本来の機能が感じられる環境である。従って機能3を持つ。

例(4-19)は「神がベオルの子パラムに臨んで、パラムがその託宣を述べた後パラムの取った動作について述べる」場面である。機能1を持つ。また直後に方向を示すラーマド1-が出現するので、機能3も持つ。

5 . 結論と展望

シリア語旧約聖書において三人称男性単数の倫理与格をみると、檜崎 (2001) の条件を改訂した次に挙げる機能を持つことが証明された。逆に倫理与格の出現条件がその機能を持つ文脈であるとも言える。

F 1 : 倫理与格は文脈上、言表事態と発話者または記述者との関係の緊密性を示す

F 2 : 倫理与格は、主語の取り立て機能を有する

F 3 : 倫理与格は方向を示すラーマト I の本来の機能の言語化である可能性を持つ

これらのうち、特に機能 1 の文脈が特に倫理与格の出現に関与していることが明らかになった。

しかしながら、出現した倫理与格の出現条件を説明することはできても、同様な文脈において、なぜ一方で出現し、他方で出現しないのかという文脈を精確に決定するには十分ではない。

(1-4) qerbat l-āh 'lay-kwon malkwut-eh da-'lāhā'
 draw near ED onto-you(m.pl.) kingdom-his of-God
 ἤγγικεν (εφ υμας) ἡ βασιλεία τοῦ θεοῦ
 『...神の国が《あなたがたに》近づいた(ことを知れ)』 Luke10,11

(1-5) qerbat 'lay-kwon malkwut-eh da-'lāhā'
 draw near onto-you(m.pl.) kingdom-his of-God
 ἤγγικεν ἐφ' υμᾶς ἡ βασιλεία τοῦ θεοῦ
 『神の国はあなたがたに近づいた』(と云いなさい。) Luke 10,9

上記の新約聖書に見られる (1-4) と (1-5) のような文脈の平行例を見ることによって初めて、記述内容と聞き手、または読み手との心理的距離の遠近が倫理与格の出現に大きく関わっていることが証明される。そのことが旧約聖書で証明できるのは創世記の 3 章 26 節の次の例において消極的に示すことが出来るだけである。

(3-24) wa-tēlek wa-tēšeb lā-h min-neged

and-sit ED

w-ʿezalt w-yetbat men qbwol;

子供の方を向いて座り込んだ。

Gen. 21,16

同一節内の二カ所の watēšeb 「彼女は座った」に対してヘブライ語旧約聖書では一方で倫理与格を取り、一方では取らない。それに対してシリア語では双方ともに倫理与格を取ることはない。

このことはヘブライ語よりもシリア語の倫理与格において出現条件の精確さが存在することを示唆する。

しかしながらモーセ五書の例は少ない。また、聖書に限らず、色々な種類のシリア語資料、さらに他の北西セム語を見る中で倫理与格の機能や出現条件が明らかになるものと思われる。今後の課題としたい。

補遺

(1) 省略記号

2. 二人称 3. 三人称 2 Chro. 歴代誌下 1 Cor. コリントの信徒への手紙 1
Deut. 申命記 ED 倫理与格 Ex. 出エジプト記 Eze. エゼキエル書
F 機能 f. 女性 Gen. 創世記 Ho ホセア書 Is. イザヤ書
John ヨハネによる福音書 2 Kings 列王記下 Lev. レビ記
Luke ルカによる福音書 m. 男性 Num. 民数記 pf. 完了形
pl. 複数 pr. 代名詞 Psal. 詩篇 rep. reprint 2 Sam. サムエル記下
sg. 単数 song. 雅歌

(2) 翻字

シリア文字 子音

alaf	ʿ	beth	b	gamal	g	dalath	d	he	h	waw	w
zain	z	ḥeth	ḥ	ṭeth	ṭ	yodh	y	kaf	k	lamadh	l
mim	m	nun	n	semkath	s	ʿe	ʿ	pe	p	ṣadhe	ṣ
qof	q	resh	r	shin	š	taw	t				

シリア文字 母音 (ネストリアン)

zeqāfā ā peθāḥā a ḥevāšā yi ‘ešāšā ‘allišā wu
revāšā karyā ē revāšā ’arriḫā e ‘ešāšā rewihā wo

シリア文字 母音 (セルトー)

zeqofo ā petoḥo a ḥevošo yi ‘ešošo wu revošo e or ye

ヘブライ文字 子音

Aleph ’ Beth b Gimel g Daleth d He h Waw w
Zayin z Heth ḥ Teth ṭ Yodh y Kaph k Lamedh l
Mem m Nun n Samekh s Ayin ‘ Pe p Tsadhe ṣ
Qoph q Resh r Sin ś Shin š Taw t

ヘブライ文字 母音

Pathah a Segol e Hireq i Qamets Hatuph o Qibbuts u
Qamets ā Tsere ē Hireq Yodh iy Holem o Shureq Waw wu
Qamets He āh Holem Waw wo Holem He oh Segol He eh Segol Yodh ey
Tsere He ēh Tsere Yodh ŷ Shewa zero or ə
Hateph Pathah a Hateph Segol e Hateph Qamets o

(3) 参考文献

- Brockelmann, Carl 1960 *Syrische Grammatik* Leipzig: VEB Verlag.
Gesenius 1910 *Hebrew Grammar* Oxford: Clarendon Press (2nd ed.).
Joosten, Jan 1989 The function of the so-called Dativus Ethicus in
Classical Syriac. *Orientalia* 58: 473-92.
Kiraz, George A. 1993 *Concordance To the Syriac New Testament* Leiden.
Moscatti, Sabatino 1964 *An Introduction to the Comparative Grammar
of the Semitic Languages* Otto Harrassowitz: Wiesbaden
(1980 3rd pr.).
Muraoka T. 1997. *Classical Syriac* Harrassowitz Verlag: Wiesbaden.
Nöldeke, T. 1898 *Kurzgefasste Syrische Grammatik* (2nd ed. rep.1966)
Darmstadt: Wissenschaftliche Buchgesellschaft.
J. Payne Smith (Mrs Margoliouth) 1903 *A Compendious Syriac*

Dictionary Oxford: The Clarendon Press.

- 亀井孝他編 1996 『言語学大辞典』 術語編 三省堂
- 高階美行 1985 「アラム語の世界」『アフロアジアの民族と文化』(民族の世界史 11) : 288-310 山川出版社
- 榎崎勝則 2001 「古典シリア語新約聖書における、いわゆる倫理与格の機能について」『西南アジア研究』 no. 55, 2001
- New Testament 1979 *Syriac Bible* 63DC United Bible Societies.
1996 Nestle-Aland Novum Testamentum Graece 27th ed.
Stuttgart: Deutsche Bibelstiftung.
- Old Testament 1913 *Ancient Syriac Old Testament* London.
1979 *Syriac Bible* 63DC United Bible Societies
1984 *Biblia Hebraica Stuttgartensia* Stuttgart: Deutsche
Bibelstiftung.
1611 *The Holy Bible King James Version* New York: abs
- 『聖書』 新共同訳 1987 日本聖書協会
(京都大学留学生センター非常勤講師)